

## 第2回文京区アカデミー推進協議会分科会(文化芸術分野) 議事要旨

日 時	平成27年6月17日(水) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター2101会議室
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授) 委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長) 委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長) 委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長) 委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
欠 席	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長) 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)
事務局	山崎 克己(アカデミー推進部アカデミー推進課長) 矢部 裕二(アカデミー推進部アカデミー推進課文化事業係長) 川口 明代(アカデミー推進部アカデミー推進課文化資源担当室長) 支援事業者 株式会社創建 大谷、氏原
資 料	文化芸術振興法、劇場法について 東京都文化ビジョン 平成26年度アンケート結果の概要

### 議 事

#### 1. 開 会

#### 2. 流れの確認等

本日の進行の予定について説明を行った。

#### 3. ワークショップまとめ

第1回分科会におけるワークショップの続きとして、第1回と同じ2グループに分かれ、意見の整理、グループ分け等を行った。

主な意見は以下のとおりである。

- ・全体としては資源に関する意見が多い。
- ・資源が多いけど、活かせてないというイメージ。
- ・資源としては、大学など教育機関が多い、シエナがあるとか、活動している団体もある。
- ・古い建物や地下鉄、後楽園関係の施設など、古いもの歴史がある。
- ・時間や費用が参加の障害になっている部分がある。

- ・周知がなかなかできていないのではないかな。
- ・資源の周知や、イベントの周知。どこに行けば、どんなことに参加できるか伝わってない。
- ・文化芸術にはメジャーなものもあれば、マイナーなものもある。マイナーなものがメジャーなものに隠れて伝わりにくい。区民自体のレビューをもっと発信してあげる。口コミを活用する。区民一人ひとりにマイナーなものからメジャーなものをふくめて伝えていく必要がある。
- ・きっかけづくりをうまく提供できないか。有楽町のラフォルジュルネのような文化の祭典のようなものを例年やっていることをしてはどうか。そこに行くと自分の知らないものにも触れられるというようなものがあるとよい。
- ・文化人、文人、歴史的なもの、シビックホールにまつわるパフォーマンスの団体、江戸自体からの伝統。資源が多すぎて大変だということが課題になるぐらいに資源がある。
- ・支えることに関しては、人が少なくなってきた。人材の高齢化、固定化もはじまっている。だから支援者の育成をしなければいけない。プロデュース能力のある人も育てないといけない。資源を活かすにはプロデュース能力のある人が欠かせない。
- ・お金が必要になってくる。区の財源が大事だが、調達方法も考えていかなければいけない。支える人材と育成、お金のことをやっていかないといけない。
- ・するということだと、区がすることとしてはPRが大事。
- ・障害者が学ぶ場が区内にたくさんあるので、それを背景としてノーマライゼーションを進めることが区の特徴になるのではないかな。バリアフリーマップなど。
- ・文化芸術が抱えざるをえない分りにくさが問題なのではないかな。その分りにくさのせいで、鑑賞に行ってもつまらないと思わせてしまう。そういうことが起こらないような、参加者の真剣度合いを高めるためにも、参加者の能動性が高いプログラムを考えないといけない。子どものころから文化芸術に触れていくようなプログラムがあってもよいのではないかな。

#### 4. ワークショップに向けた情報提供

文化芸術振興法、劇場法、東京都文化ビジョン及び平成26年度に実施したアンケート結果の概要について説明を行った。

#### 5. ワークショップ

第1回から今回にかけて整理したワークショップの内容を基に、ワークショップ形式で、取組の方向性についての意見を出していただいた。

主な意見は以下のとおりである。

- ・目標としてはキーワードとして独自文化の発信と機会の充実、人材育成。独自文化の発信でいうと、いろんなかたちで目立つ、渋さを活かすということをしていくということもあるだろう。
- ・人材育成については、学校などで美術館等を見に行ったり、受験で忙しくなっているところで資源を活かすことがある。
- ・機会の充実は相談やコラボレーションを通じて充実していくといいのでは。
- ・歴史文化資源をうまく活用していこう。今のリソースをうまく使っていこう。
- ・広報については分かりやすさもあるが、裾野を広げていかないといけない。子どもをふくめて文化に親しんでいかないといけない。

- ・歴史文化と広報の距離があるというところで、区民の隠れた能力を活かしていくことはできないのか。そういった草の根の能力を活かすときには選別をしなければいけない。

## 5. 閉 会

以上